

1 漢語のいろいろ



「田植え歌」ということは、「田植え」と「歌」にわけられるね。「田植え」はさらに、「田」と「植える」にわけられる。でも、もうこれいじょうわけることばできない。これいじょうわければ、意味をなくしてしまうからだ。このように、これいじょうわければ意味をなくしてしまう、いちばん小さなことばの単位を単語というんだよ。田、植える、歌は単語だ。そして、「田植え」や「田植え歌」のように、二つじょうの単語が組みあわさってできたことばを複合語という。

つぎに、漢字を音よみにしてつくる「経済摩擦」ということばをとりあげてみよう。これは、「経済」と「摩擦」の二つにわけられるね。でも、これいじょうはわけられない。「経済」ということばをむりにわければ、経済という二つの漢字にわけることばできる、けれど、それではへいぎいんという単語の意味はなくなってしまう。「摩擦」もおなじで、これいじょうはわけられない。このように、音よみにした漢字は、ふつう二つの漢字で一つのことばをあらわしているんだよ。



1 複合語

「田植え歌」や「経済摩擦」のように、二つじょうの単語が組みあわさってできたことばを複合語（あわせ単語）といいます。

青空（あおぞら）
青い空（あおいぞら）

子馬（こま）
子（こ）馬（うま）

野球教室（やきゅうきょうしつ）
野球（やきゅう）教室（きょうしつ）

青空は「青い空」、子馬は「子の馬」にわけられるね。でも、野球や教室は、野と球、教と室のようにわけることばできない。そこでまてわけてしまうと、へやきゆうへやへきようしつの意味をなくしてしまうからだ。野球や教室などのことばは、二つの漢字で一つのことばをあらわしているんだよ。

つぎの複合語をきりはなして、例のように、二つの単語にわけてごらん。
図 青空（青い空）、野球教室（野球の教室）

麦畑（むぎばたけ）

郵便箱（ゆうびんばこ）

休み時間（やすみじかん）

客席（きやくせき）

肉料理（にくりょうり）

昆虫採集（こんちゆうさいしつ）

2 まえづけ・あとづけ、略語

1 まえづけ (接頭辞)

小十船、道、石、鳥、魚、雨

小船、小道、小石、小鳥、小魚、小雨

小船、小道、小石……などは、複合語のなかまだ。ただ、船、道、石……などは単語としてつかわれるが、「小」がそれだけで単語としてつかわれることはない。「小」のようなことばはいつもほかの単語の意味をかざるはたらきをしているんだ。



「小」などのように、いつもほかの単語のまえについて、あたらしい単語をつくることばのきれはしをまえづけ (接頭辞) といいます。

① ものの性質をあらわすまえづけ

大……大波 大火事 大男 大水 大掃除

大……大都会 大会社 大人物 大工場

初……初雪 初春 初荷 初夢 初日 初場所

新……新学期 新発明 新校舍 新校長

② 打ち消しのまえづけ

不……不自由 不勉強 不熱心 不健康

非……非常識 非人情 非公開 非科学的

無……無感動 無理解 無関心 無愛想



3 訓よみの漢字と意味

むかし、中国からつた漢字で日本語をかきあらわすことは、たいへんしごとだったにちがいない。たとえば、「行」という一つの漢字にあてられた訓よみは四十もあったというし、「どる」ということばをあらわす漢字は、九十いじょうもあったという。そのたくさんあった使い方は、ながいあいだにだんだん整理されていった。とくに一九四六年には当用漢字がきめられて、漢字の数と音調が制限され、いまのようになつたんだよ。

行く

ユク、イク、ススム、オモムク、サル、ウツル、ヤル……
オコナウ、ナス、モチフ、ホドコス、カタル、ヤガテ……

どる

取る、捕る、採る、執る、撰る、撮る、把る、操る……
扱る、汲る、抒る、抜る、受る、征る、捉る、盗る……

(注) は、いまみとめられている訓よみの漢字)

これらの訓よみは、しだいに整理され、ふつうは一つの漢字が一つの訓をもつようにかわつていった。

1 二ついじょうの訓よみがある一つの漢字

魚
うお
さかな

汚

けがす
けがられる
よごす
よごされる
きたない

足

あし
たりる

省

かえりみる
はぶく



二ついじょうの訓よみがある漢字をしらべてみると、①「魚(うお)」「魚(さかな)」などのように、古き・新しさでちがうもの、②「汚(よご)す」「汚(よご)る」などのように文法のはたらき(動詞・形容詞)がちがうもの、③「省(かえり)みる」「省(はぶ)く」などのように、漢字そのものが二ついじょうの意味をもっているものなどにわけることができるとよ。



どちらの訓よみが文になじむかな?

(歩く、歩む)

玉砂利の参道を肅々と

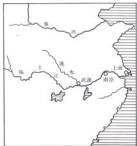
遠来の友、今宵

(来る、来る)

朝の砂浜を元氣よく

きょう遠くの友達か

4 漢和辞典のつかい方



漢字の「漢」は、なんで「さんてい」がついているんだろう？ 漢字の「漢」はもとは、漢水という川の名まえだった。その川の名まえが漢という国の名まえになったのだよ。中国では古い時代じゅんからいうと、殷、周、漢、隋、唐、宋、元、明、清というように、つぎつぎに国の名まえがかわった。その中国の歴史のなかで、漢の国はもっともりっぱな、よくとどのつた国だったので、中国そのものを漢とよんだりするし、男のことを漢(おとこ)といったりした。その漢の国のころ、いまの漢字の字体である楷書(がいしよ)ができたので、漢の国という意味で、漢字というようになったのだ。その「漢」という字は、漢和辞典ではふつうつぎのように出ている。

漢カン

漢 カシ 【意訳】①川の名。②むかしの中国にあった国の名。③中国の国や中国の人をさす。漢民族、漢文、漢字。④男の人をさす。悪漢、好漢。【組み立て】形声「亠」(音十)「莫」(カシ)。【むかしの漢字】隷、籀、楷書。漢(いまの漢字)漢

このように、漢和辞典にはその漢字のなりたちや組み立て、形や意味や音、そのうつりかわりその漢字をつかったいろいろなことばなどがあつていられているんだよ。

1 漢和辞典のひき方

1 部首索引

漢和辞典ではおなじ部首をもつ漢字がひとところにあつめられています。その部首は画数のすくないものからじゅんにならべられて、辞典をひくときの見出しになっています。



人	一	二	二画	ノ	、	丨	一	一画
人	交	二	衆	主	中	一	七	三
体	京	五					三	
仕								
(53)	(49)	(45)	(38)	(32)	(29)	(5)		